

心に残る文化財子供塾 松江市立川津小学校

1. 活動の概要

7月16日(火)、松江市立川津小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。体験活動に「大仏パネル」を希望されていたので、はじめに「奈良時代の島根県」について県埋蔵文化財調査センターの職員から説明しました。島根県域に出雲、石見、隠岐の三つの国があり、それぞれに国分寺、国分尼寺が造られたことや、国府、郡家などの役所がおかれていたこと、出雲国風土記の貴重さなどについてお話をしました。また、島根県内から出土した奈良時代の土器についても実物を見てもらいながら説明をしました。

そして、簡単な説明の後に「大仏パネル」に取り掛かりました。皆で声を掛け合い協力して体育館いっぱいの巨大な大仏を完成させました。

2. 活動の様子

1)「奈良時代の島根」について学ぶ



「奈良時代の島根県には3つの国がありました」



「出雲国風土記って聞いた事ありますか？」

2)古代体験活動～大仏パネル～



「最初に台座の部分を並べます」



「体の中央部分を探して置いて行こう！」



完成！

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・出雲のなんか本(「風土記」)が残っていてすごいなと思った。
- ・どうして島根「郡」が「県」になったのか知りたい!!!
- ・大仏をその場で本物を見たいと思いました。
- ・本物の土器を見たり、触ったりできたことが心に残っています。

2)担任の先生から…

- ・大仏パネルを作ることで、その大きさや作った時の苦勞を感じとることができた。
- ・4クラスもある学校の実情に合わせて計画してくださり、ありがたかった。
- ・社会科の学習を想起したり、学習したことを結び付けたりしながら、奈良時代の頃の島根県の様子を
知ったり、大仏づくりのことを確認したりできたことが効果的だった。
- ・大仏パネルを黙々と作るだけでなく、豆知識も学ぶことができたらいと思った。

3)埋文センターから

奈良の大仏については、社会科で既に事前に学習をしておられたので、今回は「奈良時代の島根県」について主に説明をさせていただきました。島根地域の国分寺・国分尼寺が奈良の大仏と同じく聖武天皇に命じられて設置されたとの説明をさせていただきましたが、今回の活動内容と奈良時代の島根県の関連が理解できたのではないのでしょうか。

また、大仏パネルの活動では、皆で協力し体を使って奈良の大仏の巨大さを体感したことにより、良い思い出づくりになったことと思います。